

絵本 企画展 ぞのしむ 海と船



2018.10.20(土) - 12.9(日)

会場=横浜みなと博物館特別展示室 開館時間=10:00-17:00 休館日=月曜日

入館料=一般:200円、小・中・高校生・65歳以上:100円

※企画展のみ見学の料金です。横浜みなと博物館常設展示・柳原良平アートミュージアム、帆船日本丸船内をご見学の方は、別途入館料が必要です。
※横浜みなと博物館常設展示室の単館券(一般:400円、65歳以上:250円、小・中・高校生:200円)、
帆船日本丸との共通券(一般:600円、65歳以上:400円、小・中・高校生:300円)で本展もご覧になれます。(共通券の販売は10月31日[水]まで)
※帆船日本丸は大規模修繕工事のため、11月1日[木]から休館します。※毎週土曜日は小・中・高校生は共通券が100円の特別料金になります。

交通=JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車、またはみなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 いずれも徒歩5分
後援=神奈川新聞社、一般社団法人横浜港振興協会、横浜市港湾局、NHK横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)

海の学び Supported by
ミュージアム 日本 財団
サポート THE NIPPON FOUNDATION

海と日本 PROJECT



横浜みなと博物館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-1-1 帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
TEL 045-221-0280(代表) FAX 045-221-0277 <http://www.nippon-maru.or.jp/>

たくさんの子どもたちが絵本を手にとれるようになった明治以降、日本では数多くの絵本が出版されてきました。

絵本は時代と社会の影響を強く受けます。戦争はそのもっとも顕著な例ですが、絵本には科学技術や産業の発達、社会の様相、そして大人が子どもにどのように育てて欲しいかという思いまでが反映されています。

周囲を海に囲まれた日本では、海と船は漁業、交通、遊びなどあらゆる面で私たちの生活と密接にかかわってきました。しかし、そのとらえ方は時代により変化しています。日本では海と船の重要性を反映するように、多様な海・船の絵本が出版されています。

本企画展では、明治時代から現在までに出版された絵本や原画約200点を通して、子どもたちが海と船を認識する時、絵本がどのような役割を持っていたのかを考えます。

絵本で たのしむ 海と船

本企画展では特別展示室内に、来館されたみなさんが実際に絵本を手にとって、読むことができるコーナーを設けています。また、小さなお子さんが絵本を声に出して読んだり、保護者の方がお子さんに読み聞かせることもありますので、どうぞご理解の上ご来館下さい。

コンテナくんの絵本 ワークショップ



絵本作家と船の
絵本をつくらう!!

「コンテナくん」「かもつせんのいちにち」の作者、コンテナくん(谷川夏樹先生)と絵本を作りましょう。絵本ができるまでのおはなしも聞けますよ!
※参加者全員で1冊の絵本を作ります。

日時=11月4日[日] 14:00-15:30

講師=谷川夏樹氏

(絵本作家、「かもつせんのいちにち」(2018年、福音館書店)作者)

対象=3歳以上~小学生の親子、兄弟、友達同士

※未就学児は保護者の方と一緒に申し込み下さい。小学生は子どもだけの参加も可能です。
※小学生までを対象としたワークショップですが、内容を同士ご了解頂いた上であれば、中学生~大人のみでの申し込みも受け付けます。

定員=20組(申込者多数の場合は抽選)

参加費=1人500円(材料費) 申込締切=10月25日[木]

申込方法=往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢

または学年、電話番号を明記して、
横浜みなと博物館「コンテナくんの絵本
ワークショップ」係まで申し込みください。

※応募された方全員に当落をお知らせします。
今回お申し込みいただいた個人情報等は当行事の運営以外の目的で使用することはありません。

海と船の絵本のおはなし会 海や船の絵本の読み聞かせを行います。

日時=10月20日[土]、27日[土]、11月3日[土・祝]、
11月10日[土]、11月17日[土]、11月24日[土]、
12月1日[土]、12月8日[土]
14:00-14:30

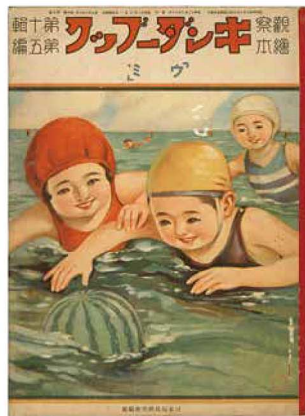
会場=横浜みなと博物館特別展示室 参加費=無料

※ただし、企画展または常設展示室の入館料が必要です。
申込不要、当日会場へお越しください。
※協力:横浜中央図書館、おはなしクーク、水曜会



少年教育 汽車汽船つし
1905(明治38)年頃

定期航路の汽船、灯台、帆船、港の様子が描かれる。乗り物をテーマにした絵本は1900年代初頭から見られ、その多くが汽船、汽車を取り上げる。汽船、汽車は新しい乗り物として子どもたちの身近なもの、興味の対象となった 当館蔵



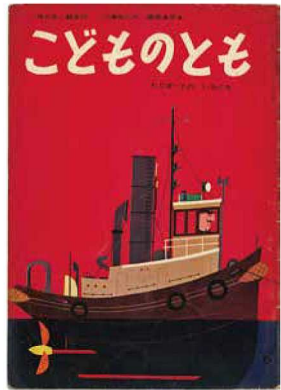
観覧絵本 キンダーブック 第10輯 第5編
ウミ 日本玩具研究会、フレーベル館
1937(昭和12)年

魚類や塩田、潮干狩り、港からの貨物船の出航、捕鯨船、海女、漁業や釣り、軍艦、帆船など、海の魅力と役割を余すところなく、美しい絵で紹介している。『キンダーブック』は1927(昭和2)年創刊。子どもの絵本に初めて「観覧」の視点を取り入れた 当館蔵



講談社の絵本 センスキカン
大日本雄弁会講談社
1940(昭和15)年

講談社の絵本は1冊1テーマの編集で、これまで雑誌が中心だった子ども向けの読み物に絵本という形を定着させた。偉人伝、昔話などが美しい絵で語られる一方、戦争を主題とした絵本が多数含まれ、子どもたちに大きな影響を与えた 当館蔵



こどものとも39号 たぐぼーとのいちにち
小海永二作、柳原良平画
福音館書店 1959(昭和34)年

タグボートの働きを描く。柳原良平が初めて手掛けた絵本。大胆な構図と高いデザイン性が目を引く。「こどものとも」は、戦後子どもたちのための本格的な絵画を用いた物語絵本を目指し、1956(昭和31)年に創刊した 当館蔵



『フェリーターミナルのいちにち』原画 石橋真樹子画 2008(平成20)年

北海道・苫小牧港を舞台にした絵本の原画。フェリーターミナルでの船、人物の動きが精緻な筆遣いで描かれる。明るい色調は楽しい船旅への期待を持たせる 作者蔵



ボクふねにのる 柳原良平作・画 佼成出版社 2004(平成16)年
親子が客船にっぽん丸での船旅を楽しむ。クルーズの楽しさと、旅の途中で出会う様々な船が描かれ、子どもたちが船を身近に感じることができる 当館蔵



『かもつせんのいちにち』原画 谷川夏樹画 2017(平成29)年

内航貨物船の働きを荷役や航海、働く人の視点から様々な筆遣いで描く。生活に欠かせない存在でありながら地味な貨物船に光を当て、数年間にわたる取材を経て描かれた 作者蔵

学芸員による展示解説

日時=11月23日[金・祝]、12月9日[日]

各日2回 11:00~、14:00~

会場=横浜みなと博物館特別展示室 参加費=無料

※ただし、企画展または常設展示室の入館料が必要です。申込不要、当日会場へお越しください。

柳原良平アートミュージアム特集展示

宝船と七福神

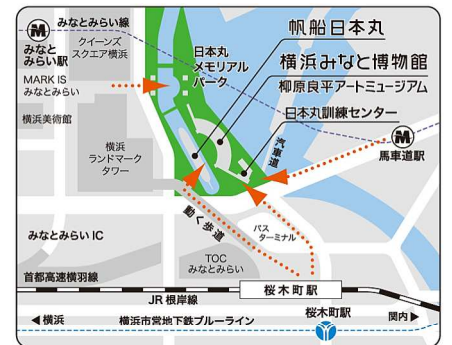
2019年1月1日[火・祝]—3月31日[日]

今回の展覧会

企画展「第一号ドック物語」

2019年1月19日[土]—3月31日[日]

※1月28日[月]—2月1日[金]は館内整備のため休館



● JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車 徒歩5分
● みなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 徒歩5分



横浜みなと博物館

〒220-0012 横浜西区みなとみらい2-1-1
帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
TEL 045-221-0280(代表) FAX 045-221-0277
http://www.nippon-maru.or.jp/